

SCHOOL DATA

〒277-0812 柏市花野井1652番地の34
 TEL.04-7133-8500 FAX.04-7134-5526
 ■児童数/269人 ■教職員数/15人 ■周辺環境/住宅地

(平成20年5月1日現在)



ホタルの放流の説明会

ビオトープの概要

- 場所/学校敷地内
- 面積/約84.15㎡
- 設置者/学校
- 設置した年/2007年
- 直近の改修年/2008年
- 主な管理者/教員
ホタル呼び隊(児童)
ホタルを守る会(地域住民)

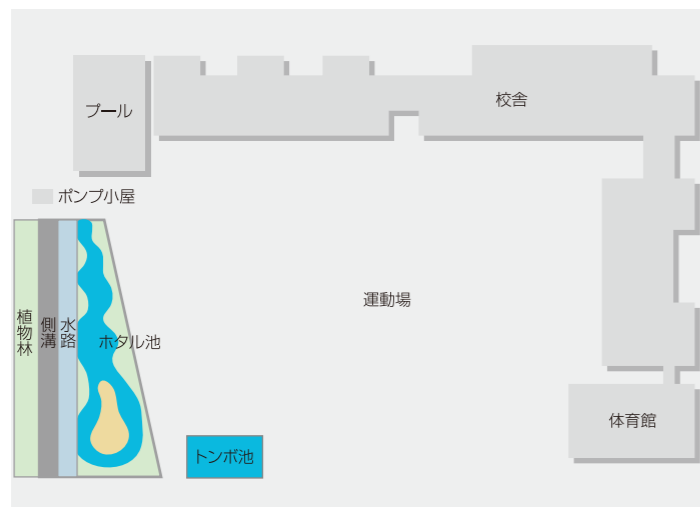
<コンセプト>

ホタル池は、本校の立地条件を有効に活用した。校庭は、土地が低く元々は湿地帯の場所で、南側には、近隣の背丈の大きな雑木林に囲まれ、今でもその脇からは湧き水が流れている。また、その校庭南側の日陰の部分は、1年を通してジメジメしている。そして、昨年度その場所(湧き水と湿地帯)の有効活用をするために、柏NPOホタルの会の方に調査してもらったところホタルの生育に適していることがわかった。

そこで、職員、児童、地域の方たちの協力をえてホタル池作りと、湧き水だけでは水量が足りないため以前からある「尾井戸の泉」を掘り直し水源の確保をした。

ホタル池作りが決まってから同時にホタルの幼虫の飼育が始まり、その飼育状態も児童が観察できるように飼育場所の工夫をした。

ホタルとふれ合うことで、児童や地域住民が自然環境に関心を持ち、自分たちの住んでいる自然環境を守るきっかけになってくれればと考えている。

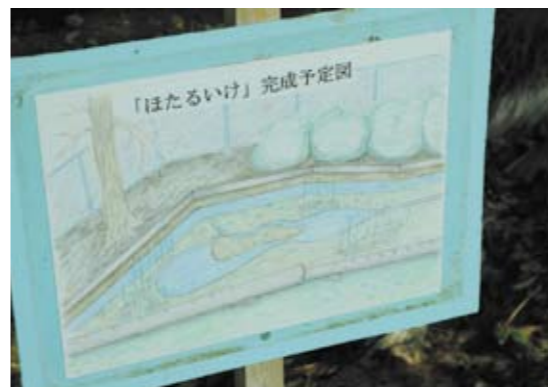


生息している生物

- <池>
 植物:セリ、ヨシ等
 動物:ヘイケボタル、タニシ、モノアラガイ、カワニナ、サカマキガイ等
- <林>
 植物:シロダモ、アオキ、チヂミザサ等
 動物:タヌキ、ノウサギ、ヒヨドリ、セグロセキレイ、カッコウ、キジ、アオダイショウ等
- <トンボ池>
 動物:ノシメトンボ、オニヤンマ、シオカラトンボ、アズマヒキガエル、トウキョウダルマガエル等

今後生息させたい生物

ホタルが自然繁殖するために、餌になる貝が自然繁殖できる環境を整えていきたい。



ホタル池完成予想図



ホタルの放流



ホタルの幼虫の飼育

ホタル池の活用方法

児童

ホタル呼び隊による調査活動(水質、水温、気温、環境) 環境整備
 ホタル観賞会の実施
 ホタル等の学習会
 全児童が生活、総合的な学習の時間に、ホタルについて学習会の実施

保護者、地域住民

ホタル観賞会の実施
 ホタル幼虫の里親制度
 ホタル池の環境整備

ホタル池の効果

■児童への効果

ホタルの飼育やホタル池の環境整備を通して、ホタルの生息する自然環境の仕組みや、自然にふれ合うことで豊かな心を育むことが期待できる。

■教職員への効果

理科、生活科、総合学習の教材として、効果的に活用することができる。

■保護者、地域住民への効果

ホタル池の管理、観察会などで、地域の自然環境に関心を持つことや、学校理解に促進することができる。

保護者、地域との連携

児童、保護者、職員、地域住民ホタル観賞会の開催

観賞会に地域の方々に参加してもらうことで、学校教育活動の理解と協力を促す。また、地域の自然環境に関心を持ってもらうきっかけになってほしい。

NPOホタルの会を中心とした学習会

日常の観察、学習会や個人学習などから知識を知り、ホタル呼び隊の児童がホタルやビオトープ、自然環境を大切にしていこうとする意欲を育てる。また、ホタル呼び隊を通して、他の児童がホタルや自然環境に対して興味関心が広がって行くことを期待している。

地域住民(ホタルを守る会)

今後、ホタル池の管理やホタルの幼虫の里親を、ホタルを守る会で活動していきたい。

整備・活用・管理等の課題

ホタル池脇斜面(林の下)の下草刈りなどの管理、ホタルの幼虫の飼育、幼虫の放流会、観賞会等、また、ホタルを守る会(保護者、地域住民)の活動計画を充実させ、保護者や地域住民が管理しやすい体制作りを進めていきたい。

今後の展望

学校周辺の住宅地が増えている中で、ホタルの自然繁殖に向けての活動を通して、児童、保護者、地域住民が本校周辺の恵まれた自然環境を大切にしようとする意識づけになるようにしていきたい。

整備を担当した教員の感想

昨年度からホタル池の造成や幼虫の飼育、幼虫の放流等を行い、成虫になって観賞会に飛んでくれるかが不安だった。

観賞会当日、10数匹のホタルが飛んでくれたことで、約1年活動してきた苦勞が喜びに変わった。と同時にホタル池の不備がわかり池の改修工事をすることにした。しかし、改修工事といってもほとんど作り直す計画になってしまった。

ビニールの防水シートを取り除き、元々湿地帯の場所なので柔らかい場所に石を入れ赤土で硬め、回り土留めのために杭を打ち込んだ。石を入れたりするのは児童の力を借りた。

しかし、土が柔らかい所へ石を入れながらの杭打ちは、一度に大勢で打てないため担当が500本以上の杭を打ち込むことがとても大変だった。人的配置、杭打ち方法に問題があったと思える。

また、作業が始まってから、何度か雨が降り泥沼状態になってしまったことでやむなく作業が中断してしまったこともあり、作業の遅れにもつながってしまった。

昨年は幼虫をNPOからもらったのだが、今年は8月に本校で産卵し幼虫になった150匹近い幼虫を飼育している。児童や地域住民は、新しいホタル池に放流できることをとても楽しみにしている。そのためにも今年以上にホタルの住みやすい自然環境を作ってあげたい。